



ロシアによるウクライナへの一方的な武力侵攻を許さない！

緊 急 声 明

2022年2月22日、ロシア・プーチン大統領は、親ロシア派武装勢力が実効支配するウクライナ東部のルガンスク州とドネツク州の一部地域の独立を承認した。ロシアは「ロシア系住民の保護」「自国民の保護」「ウクライナ軍の攻撃を撃退するため」を理由にロシア軍に対し、2月24日「特別軍事行動」と称して軍事侵攻を開始させた。この理由ならざる理由による行為により、罪が無い多くの市民が犠牲になっている。私たちはこの一方的な侵略を許すことは出来ない。

戦争で犠牲になるのは、労働者・市民・弱者である。いつの時代でも変わることはない。ロシアの侵略によりウクライナ国内では14人の子供の死者を含む352人が犠牲となり、負傷者は116人の子供を含む1684人におよんでいる。ロシア軍は市街地への攻撃を開始し多くの市民が犠牲になることは間違いない。軍事施設からライフライン施設への攻撃も報告され、ウクライナ国内は混乱を期している。

ロシアは情報統制を行い、事実を隠蔽して歪曲して情報を流している。しかし、ロシア国内では多くの国民がSNSを中心に情報を収集し、反戦の声が拡がり反戦デモが行われている。市民集会や市民デモを厳しく取り締まり、これまで5900人の市民が拘束されている。権力者の意思に反する声を圧殺しても、市民の声を封殺することは出来ない。

ロシア・プーチン大統領は「ウクライナ政府によって虐げられた人々を保護するため、『特別な軍事作戦』を実施することを決定した」と演説し、同じ演説の中で「ロシアは、ソ連が崩壊したあとも最強の核保有国の一つだ。ロシアへの直接攻撃は、敗北と壊滅的な結果をもたらす」と演説し「核兵器」使用も辞さない考えを示した。世界で唯一の被爆国である私たちはこの発言を絶対に許すことは出来ない。今こそ日本は「核兵器禁止条約」の締結に踏み切り、国連加盟国122か国と共に今すぐ核兵器の放棄を全世界に呼びかけるべきである。

私たちJR東日本輸送サービス労働組合東京地本は「人権」「いのち」を奪うあらゆる戦争を許さない立場でロシアに対してウクライナからの「即時撤退」を求め、核兵器使用を示唆する蛮行を許さず世界平和を求めるものである。あらゆる仲間と連帯し、明るい未来、平和な社会をつくり出していこう！

2022年3月1日
JR東日本輸送サービス労働組合
東京地方本部

ロシアによる一方的な武力侵攻を許さない！